

## 総合討論とまとめ

### 総合討論

個々の講演者に対する質問および総合討論では、台風の経験談から、太陽活動や気候変動と台風の規模との関係に至るまで、幅のひろい質疑がなされた。一般の方の質問には即座に答えられないものもあったが、講演者の村松会員から経験に基づく丁寧な回答が与えられた。

アンサンブル予報を用いた台風の進路予測や双方向予報システム（機動観測）による台風進路の予報精度の向上の事例、および雲解像モデルで見た台風の構造についての講演には大きな関心が寄せられた。しかし、数値モデルの性能についての質問に対して短時間で回答することは難しく、一般の参加者に研究の現状をきちんと理解してもらえていない可能性もある。地球温暖化時に台風の数や強さがどうなるかという点については、これまでも多くの議論があるが、最近の高解像大気大循環モデルを用いた結果から、台風の数は

減少するものの、強い台風の数が増加する事が示された。このメカニズムについての解釈が示されたことは、台風研究の将来を示唆するものとして参加者に受け取られたであろう。

### まとめ

気象学会の一環として行われた公開シンポジウムということで、会場には気象学会員を中心として500名以上の参加者があった。質疑応答の際には、一般の方からの質問も数多くなされ、「台風」という激しい気象現象に対する関心の高さが感じられた。伊勢湾台風から約50年間を振り返り、台風に関する研究の現状を理解し、温暖化時の台風の特性の変化について考えるという意味で、「台風」に関するまとまった講演会になった。この講演会を契機に台風に関する研究が発展し、防災への関心が高まることを期待したい。